

第4次芦屋市総合計画に関する前市民会議委員との 意見交換会の開催について（報告）

1 目的

第4次芦屋市総合計画の策定にあたっては「第4次芦屋市総合計画素案作成市民会議」を設置し、47名の委員がのべ61回の会議を重ね、基本構想素案を市長に提言していただきました。

本市では、後期基本計画の策定に向けて検討を進めているところであり、市民会議委員にご協力いただき、策定当時の見込み・期待の視点から、前期計画期間における芦屋市のまちづくりを振り返るとともに、後期基本計画の策定に向けてご意見・ご提案をいただくため、前市民会議委員との意見交換会を開催しました。

いただいたご意見については、庁内で共有するとともに、総合計画審議会にも情報提供し、後期基本計画策定の参考資料として活用します。

2 参加者

22名

（「第4次芦屋市総合計画素案作成市民会議」の委員47名に開催通知を送付）

3 開催日時

平成27年6月6日（土）10時から12時まで

4 開催場所

消防庁舎3階多目的ホール

5 意見交換会の内容

(1) 趣旨説明

- ・ 第4次芦屋市総合計画と後期基本計画の策定の流れ
- ・ 意見交換会の開催目的、意見の活用方法など

(2) 意見交換（3グループに分かれて実施）

- ・ 市民会議で意見交換していた頃と比べて「良くなった」と感じられること
- ・ 市民会議で意見交換していた頃からあまり変わらず、今も課題だと感じていること
- ・ 将来、人口減少や少子高齢化がより一層進むことが見込まれるなかで、今後5年間で特に力を入れて取り組むべきこと

6 意見のまとめ

別紙参照

■ 第4次芦屋市総合計画に関する意見交換会での主なご意見（施策目標別のご意見のまとめ）

関連する施策目標	前期基本計画期間のまちづくりをふりかえって		今後5年で力を入れること
	良くなったこと	今も課題であること	
全般的なご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・変わらない芦屋の魅力（芦屋ブランド、みどり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・良くなったという実感が無い。 ・芦屋市の良さがなくなってきた。 ・子育てしたいが、芦屋市に住むというハードルの高さが潜在的にあるのか、西宮市ほど多く流入していないのかわいか。 ・議会や組合の改革が進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富裕層を誘致する。 ・国際文化住宅都市として住むことに憧れるまちへ。 ・5年先の人口減、市内の高齢化に備えて安心して住み続けられるまち（福祉、交通）。 ・JR芦屋駅南の玄関口としての風格づくり。 ・35の施策目標と地方創生の関係を整理して取組を進めてほしい。
1-1 市民一人一人がそれぞれの状況に応じて必要な情報を手に入れられる	<ul style="list-style-type: none"> ・「集会所トーク」の資料が見やすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政からの情報提供の充実を期待したが進んでいない。 ・「集会所トーク」で3年先を見通した説明を求めたが回答がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋の魅力の発信が不足しているため、市外にPRする。
1-2 市民が主体となった活動が増え、継続的に発展している	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアが最近活発である。市民の意識が高まった。 ・商店街の取組（BAL）。 ・有志が集まって芦屋のことを話し合うようになった。 ・ずっと働いてきて芦屋のことを知らなかったが会議に参加して知った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他力本願な市民がみられる。 ・ボランティア活動に対して市がサポートしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が市民活動に参加しやすくなるような後押しをする。（気軽に第一歩を踏み出す後押し、の仕掛け、IT、携帯電話の活用、行政によるきっかけづくり） ・ネットワークづくりへの支援。
1-3 地域主体のまちづくりの仕組みが根付き、地域の高まっている	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の活性化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に参加しない人が増えている。 ・自治会費の支払い拒否（町会に入らない人）が増えている。市民とコンタクトができなくなっている。 ・マンションのコミュニティをしっかりと形成すべきである。 ・浜風町などの集会所を今後どうするか、未だ決まっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のボランティアによる子育て支援、学校支援。 ・特にマンション等集合住宅のコミュニティ形成の強化。 ・住民が案内資料を作成したところ自治会加入率が向上した事例が西宮である。
2-1 市民が教養を高める機会が豊富にある		<ul style="list-style-type: none"> ・文化的な面でレレダラウンを感じる（ルナホール、市民センターでの活用を見て感じている）。 ・岩園小学校が手塚でブレハブである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の場づくり。（市民活動フェスタ、さくらまつり等のイベントの活用）
4-1 子どもたちが「生きる力」を身につけ、健やかに成長している			<ul style="list-style-type: none"> ・保育、学校教育で若い人を呼び込む。 ・芦屋の幼稚園はよい。 ・教育委員会は私学への進学が多い状況をどのように考えているのか。芦屋の子どもは芦屋で育てるべきではないか。 ・スポーツで芦屋の子どもの名前が出てこない。 ・給食の導入スピードが遅いように思う。
5-1 世代を越えた多様なつながりが様々な家庭の子育てを支えている		<ul style="list-style-type: none"> ・若い親への支援が必要。 ・子育て環境は改善したかもしれないが、その効果を実感しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が芦屋に住みたいと思えるように保育所をつくる（市有地を活用して便利などころを整備する）。 ・子育て世帯が本当に住みやすいまち。 ・子育て支援の充実。

関連する施策目標	前期基本計画期間のまちづくりをふりかえって		今後5年で力を入れること
	良くなったこと	今も課題であること	
7-1 地域のおける保健・医療・福祉の連携体制がとれている		<ul style="list-style-type: none"> 介護については地域の活性化が必要。 福祉は次々と課題が出てきて、うまくいったところと、課題になっているところがある。 	
7-2 高齢者がいつまでもいきいきと安心して暮らせている。		<ul style="list-style-type: none"> 老人クラブの組織率や活動が低下している。(魅力がない、名前のイメージがよくない) 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のおひとり様支援(生活サポート、往診などの医療支援、ショートステイの充実) 老人クラブの魅力アップ。ゲートボールはしたくない。仕組みや運営の見直しが必要。
8-1 市民一人一人の暮らしの安全・安心への意識が高まっている			<ul style="list-style-type: none"> 住民の「人の目」で防犯を監視すべき。住民同士の結びつきになる。 住民同士があいさつし合うなどで人の目が増える。 防犯の意識の契機となるイベントの開催も効果的。
8-2 犯罪が起きにくいまちになっている。	<ul style="list-style-type: none"> 治安がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの設置(プライバシーへの配慮が必要)。 街灯が暗いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラ、監視カメラをもっと設置してはどうか。
9-1 家庭や地域、行政の防災力が向上している。		<ul style="list-style-type: none"> 備蓄が足りない。防災への市民の意識が低い。 災害に備えて、市職員は市内に居住する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態に備えて市職員は市内に住んでほしい。
9-2 災害に強い安全なまちづくりが進んでいる		<ul style="list-style-type: none"> 山林の安全。 	
10-1 自然と緑を守り、創り、育てる文化を継承している	<ul style="list-style-type: none"> 環境がよい。 緑が多い。みどりの活動の成果が出てきた。 鳥の声が聞こえるまち。 景観がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 畑や空き地がなくなってきている。 剪定の時に、街路樹を切り過ぎではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋の自然資源を身近に感じられること(山から海)。
10-2 建物などが地域ごとの緑ゆたかな景観と調和している		<ul style="list-style-type: none"> 電柱・電線。 	
11-1 環境に配慮した暮らしやまちづくりがすすんでいる		<ul style="list-style-type: none"> 環境処理センターの予約の仕組みが使いづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境(ごみ)対策に力を入れるべきである。 パイプライン(ごみ処理)をなくす方向にあるのはいいか？なものか。 高齢者はごみ集積所までごみをもっていくのが大変。 カラス対策が必要。
11-2 清潔なまちづくりが進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 清潔。 道路へのごみのポイ捨てが減った。 バス停のたばこの灰い殻がなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> たばこのマナーが良くない。 表面的にはきれいにならなくなったが、市民生活のマナーなごみの中身はどうか。 	
12-1 交通ルールやマナーに関する意識が高まっている		<ul style="list-style-type: none"> 自転車のマナーがよくない。 保育所前で保護者が立ち話をしている通行に支障がある。 J R 芦屋駅周辺の路上駐車を取り締まってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民を巻き込んだ自転車マナーの取組(地域と行政の協働)

関連する施策目標	前期基本計画期間のまちづくりをふりかえって		今後5年で力を入れること
	良くなったこと	今も課題であること	
12-2 公共施設などのバリアフリー化が進んでいる			<ul style="list-style-type: none"> • 障がいのある方の目線での取組。
12-3 市内を安全かつ快適に移動できる		<ul style="list-style-type: none"> • 自転車道の整備。 • J R 芦屋駅の南側のタクシー乗り場に屋根がない。 • 道路工事の予告が当日にされることがあり、大きくくう回しなれないことがある。 • 市内で高齢化が進んでいるが、バスの便が減っている地域が出てきている（交通の足がなくなってきた）。 • 歩道に歩きにくい箇所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 歩車道の分離。 • 自転車道を分かりやすく。 • 寺田踏切。 • 市の巡回バス。 • 歩者優先の道づくり（ヨーロッパの自転車道のような自転車と歩行者共存の歩道） • 歩道を拡充する。 • 車の抑制。
14-1 市民参画による開かれた市政運営をしている	<ul style="list-style-type: none"> • 市として施策事業の進捗をチェックする姿勢が出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市政についての情報発信が不足している。 • 市民が意見を言っても十分に活かされていない。 • アンケート調査で「分からない」が多い。市民に政策が伝わっていないのではないか。 • 課題に対して、具体的な取組が進んでいないことが多いように思えてしまう。 • 市の考えや取組を、もっと市民に伝える努力が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市民参画の意識高める取組組み。 • 土日や夜間の活動。（そのほうが参加しやすい） • 芦屋の資産である市民の力を集めて取り組んで欲しい。 • 30～40代は忙しいためオープンデータを活用した参加の仕組みがでないか。 • アンケートの回答だけ求められ、結果についての市民への情報提供がない。 • 今後転出入者にアンケートをとるようにはしてはどうか。 • 目標値を持つことは良い。市民の声をもとに目標値を定めでは。
14-2 変化に対応できる柔軟な組織運営をしている	<ul style="list-style-type: none"> • 市の対応がよくなった（道路、水道）。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「お困りで課題」が受け付けた苦情は担当課だけで判断せず、市長が判断して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 感動するような行政をしてほしい。 • 意見を言いやすくするため「お困りで課題」の名称変更を。

